

## 重点施策2 確かな学力を育む教育課程の編成と実施

### 【施策方針】

- 確かな学力の定着と向上
- 内面に根ざした道徳性の育成
- 個性の伸長、集団の一員としての自覚及び自主的・実践的態度の育成
- 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や態度の育成

### 【実施状況】

#### (1) 主な施策・事業

- ① 学習指導
- ② 道徳教育
- ③ 特別活動
- ④ 総合的な学習の時間
- ⑤ 外国語活動(小学校)
- ⑥ 情報教育

#### (2) 施策・事業の実施状況

##### ① 学習指導

各学校は、「学力向上推進計画」を立案し、自校の実態を分析するとともに学力向上の具体的な手立てを講じて、学習指導の工夫・改善に組織的に取り組んできた。

今年度の全国学力・学習状況調査では、本市は、全国平均と同得点だった小学校理科以外の小・中全ての教科で全国平均を上回った。また、県平均と比較しても、1ポイント下回った小学校の算数Bと理科以外は全て上回っており、特に中学校理科では、県平均を3ポイント上回る結果であった。

2学期以降も、各学校で学力向上推進計画の取組指標と成果指標の見直しを行い、更なる基礎・基本の定着と、読解力や思考力を育成する学習の充実に取り組んだ。また、過去問題の適切な活用や学習支援サイト「学びの森」を通して、問題対応力の育成を図り、次年度の全国学力・学習状況調査及び県学力診断調査等の結果につなげる指導も行った。

教育委員会は、日々の授業改善や指導力の向上を目指して、校内研修の充実に努めるように指導した。教職員の資質・能力の向上を目指して、市教研では、小学校10部会、中学校9部会の教科部会を編成し、全員がいずれかの部会に所属して研修を深めた。

部会の運営については、第1回研究集会を4月12日に開催し、各部会の研究主題、研究推進計画を策定した。教科部会の研究集会を6月25日に、教科外部会の研究集会は8月上旬から11月上旬に部会別に開催し、授業研究や実践報告等を行った。各部会ともテーマに迫る実践的な研修を行うことができ、確かな学力の定着と向上を目指した有意義な研修となった。また、8月8日には、第47回市教研大会(教育講演会)をゆめみかんを会場として行った。八幡浜市出身の教育実践研究家である菊池省三先生を講師と

して「子どものコミュニケーション脳力を育てよう」と題した講演会を開催し、全教職員で研修を深めた。

また、教育活動指導員を、継続して4校（白浜小、神山小、千丈小、宮内小）に配置し、人数の多い学級において少人数指導に取り組み、個に応じた学習指導の充実に努めた。

## ② 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間

小・中学校別に、道徳教育と特別活動の部会を編成し、教育研究推進に取り組んだ。総合的な学習の時間については、各校の主任による小・中合同部会を編成し研究に取り組んだ。

部会の運営については、第1回研究集会を4月12日に開催し、部会ごとの研究主題、研究推進計画を策定した。第2回研究集会を8月上旬から11月上旬に部会別に開催し、研究授業や実践報告、講師を招いての研修等、各部会の主体性を生かした研究を行った。

- 道徳部会（小学校）・・・11月1日 研究授業等（宮内小学校）
- 道徳部会（中学校）・・・10月30日 研究授業等（松柏中学校）
- 特別活動（小学校）・・・11月7日 研究授業等（白浜小学校）
- 特別活動（中学校）・・・10月30日 研究授業等（八代中学校）
- 総合的な学習の時間（小・中合同）・・・8月17日講義（県総合教育センター）

## ③ 外国語活動(小学校)

6月25日、白浜小学校を会場とし、研究授業・研究協議・情報交換を行った。

教育委員会は、ALT3名と外国語指導助手コーディネーター1名を継続採用し、小学校の外国語活動担当教諭の指導力の向上やALTを効果的に活用した小学校低学年の外国語教育に継続して取り組んだ。

## ④ 情報・視聴覚教育

ICT機器を積極的に活用した授業が各校で行われた。8月9日に、県総合教育センターの指導主事を招いて「ネット問題の現状把握と児童生徒への指導等」について研修を行った。

教職員の情報機器リテラシーが高まる一方で、情報モラルの向上やハザード対応力の強化は依然として課題である。各学校においては、児童生徒の啓発はもちろん、教職員や保護者の研修に積極的に取り組んだ。

また、ホームページを活用した積極的な情報発信については、全ての学校で、充実した内容になっている。

## ⑤ 郷土学習

小学校3・4年生は、平成27年度に改訂した郷土学習資料「八幡浜の暮らし」を活用して郷土学習を行った。

また、総合的な学習の時間において郷土の文化や産業、環境をテーマに探究的な学習に取り組んだ。

## ⑥ 研究事業等

次の学校が研究指定を受け、教育実践を通して児童生徒の生きる力の育成に成果を上げた。

- 森はともだち推進事業（日土小 29 年度～30 年度）
- 南予地区人権・同和教育研究協議会（八幡浜市 川之石小、保内中）
- 子どもの体力向上対策事業協力校（松蔭小）
- 幼保小連携教育訪問（神山小）
- 四国地区（愛媛県）中学校体育連盟研究大会（保内中）
- えひめジョブチャレンジU-15 事業 職場体験学習モデル校（市全中学校）

#### 【事務事業点検評価委員意見】

- 学習指導においては、「教員の資質・能力の向上」のための施策と関連するが、ブロック別研修、県教育委員会主催の研修会、その他の研修会など、様々な機会を活かして取り組んでいる。その成果の一端が、全国学力・学習状況調査結果に表れている。少子化により市内の教職員数は減っており、研修する教職員集団は小さくなっているが、その活動の質を高く維持して取り組んでいただきたい。
- 市教研の部会を再編して研究推進に取り組んでいる道徳教育は、小・中学校の各部会でしっかりと研究推進に取り組んでいただきたい。また、小学校での外国語活動を含めて、自ら考え、表現し合い、仲間とともに練り合い、より良く課題を解決する過程を通して、より確かで多様な学力を身に付けさせたい。
- 小・中学校を通した郷土学習は、八幡浜の学習から始まり、子どもの成長過程に応じて範囲を広げ、やがては我が国の学習へと発展するものであり、最終的には日本人としてのアイデンティティを確立する基礎学習となる。グローバルな時代に生きる子どもたちにとって、外国語学習とともに重要となる学びである。子どもの成長に応じた横断的な学習が展開されることを切に願う。
- 確かな学力を育む教育課程を編成し、実施することは、学校の本質的な務めである。一方、そこで生じる多量の“教師のやるべき事”は、社会が学校に「教師の働き方改革」を求めるまでに至っている。何をどのように取捨選択していくのか、その方向性を示すのは、学校現場を指導する教育委員会の任務ではないかと考える。

#### 【自己評価】

- 市教研部会の課題解決に向けて、大きく組織改革を行う方向で検討している。更なる改善を目指し、各部会の実践や要望等をまとめ、適切な対応や支援を続けていきたい。
- 小学校では、道徳科・特別活動・総合的な学習の時間が新学習指導要領による実施となり、評価の在り方等を含め、研修を充実させて日々の実践に生かしている。  
また、小・中ともに移行措置がスムーズに実践できるよう、特別部会や教科・教科外部会で情報交換を密にし、各校の主任や各部会の部長のリーダーシップが発揮できるよう市教育委員会として支援を継続する。
- キャリア教育、プログラミング教育、主権者教育、消費者教育等、学校現場には多くの教育実践が求められているが、学校現場の実態を把握した上で、学校の教育目標実現のために必要な教育課程の編成・実施を指導していく。ブロック体制の見直し等も計画的に取り組むたい。

- 新学習指導要領の全面实施に向けて、小学校3、4年生が授業等で使っている「八幡浜のくらし」を改訂する。郷土の発展に尽くした偉人についての内容も充実させ、小・中学校を通して学ぶ郷土学習に生かせるようにしたい。
- 教師の働き方改革については、国のガイドラインや県の方針、計画等を参考にしながら、八幡浜市の実態を重視し、各校と共通理解を図って進めていく。